

【INACOME】起業者と地域課題のマッチングプログラム 実施レポート

作成日：令和3年2月24日

作成者：(株)エーエスピー 林 直樹

■属性

受入希望自治体：静岡県静岡市

地域課題テーマ：茶園農作業支援,観光農園の展開等による荒廃農地の活用

マッチング起業者：(株)エーエスピー 林 直樹

■レポート内容

1. 提案概要

<テーマ>

農作業を軸としたヘルスケアサービス

<提案内容>

弊社は、農業を軸に新しい産業の創出を行うプラットフォーム事業を展開している。その中で農作業を日常生活に取り入れることで運動機能維持やストレス低減につながる新しいヘルスケアコンテンツとして事業化を目指している。現在、建設会社、鉄道会社、食品会社、スポーツジム、大学などと連携して実証事業を計画している。

うつ病による経済損失は2兆円と試算（慶応義塾大学医学部論文より参照）もされており、コロナ禍においては、テレワークにおけるストレスが解消されていないという割合が増えている。（リクルートキャリアの働き方調査より参照）このようなことから屋外で緑を感じながら生活することでストレスの低減を図る。

茶畑は森林浴のように癒し効果もあると思われるため、茶摘み体験を通じてストレス低減や生活満足度を高めるプログラム開発を行う。実証事業として茶摘み体験前後のアンケートや疲労度の計測などによりエビデンスを取りながら、体験時間、回数ならびに自身が摘んだお茶を飲むなどの体験による満足度を数値化していく。

2. 調査報告

<調査スケジュール>

2月9日 現地調査の事前準備として静岡県中部農林事務所農村整備課、静岡市経済局 農林水産部 中山間地振興課とオンライン打合せ

2月18日 静岡県静岡市にて現地調査を実施

① 静岡市葵区有東木地区視察

参加者：静岡県経済産業部中部農林事務所農山村整備部

田村技監、源久課長

静岡市経済局農林水産部中山間地振興課 萩原企画係長

内 容：・有東木地区の概要、農地（茶畑、わさび田）利用状況、集落（トイレ含む）
・農産物加工販売施設「うつろぎ」
・参考資料「ふじのくに美しく品格のある邑有東木地区」説明

② 静岡市葵区有東木地区視察

内 容：・玉川地区の概要、農地（茶畑、水田）利用状況、集落（トイレ含む）

・参考資料「ふじのくに美しく品格のある邑玉川地区」説明

③ 足久保奥組段々茶畑等視察

内 容：・周辺の体験施設（キャンプ場、ガイアフロー静岡蒸留所等）

2月19日 ホテル業界誌役員へコンテンツ提案と集客協力の打ち合わせ

<調査結果の詳細>

2月9日 実施計画検討のため、静岡県、静岡市とオンライン打合せ

調査項目のすり合わせを行い、茶摘み体験の場所の視察ポイントとして

①現場の雰囲気、②体験者の休憩・トイレなどの環境、③アクセスルートの確認、体験内容として、①体験方法、指導状況、②体験時間、③茶摘み以外の体験内容、④体験において問題になっていることなどを整理した。

2月18日 静岡県静岡市にて3か所の現地調査を実施

静岡駅から車でアクセスルートを確認しながら、体験用の茶畑に関しては、生産用ではなく、世界農業遺産にもなっているわさび田も含め、観光資源としての景観維持が目的であることを前提で視察を行った。

<体験環境>

道が狭く、急斜面のところもあるが、バスも運行しており、何より静岡駅から30分圏内である点はアクセス面で評価できる。景観はどこも素晴らしいが、耕作放棄地になってから時間が経過しているところやつぶしてしまっているところが点在しており、景観の面から残す茶畑と残さないところを分ける必要があると思われる。また放棄地になってからかなり伸びているところは隙間もなくなっているため、間を通れるよう整備する必要もある。(写真1～3)

3箇所ともに駐車場や休憩場所やトイレなども整備されており、受け入れに必要な設備は整っている。(写真4～6)

茶畑の体験以外にもわさびの収穫体験や茶もみ、ウィスキーなど食を絡めた体験もあり、また川やキャンプ場などでBBQやグランピングのできそうな場所もあることから、ロケーションとしては問題ない。(写真7)

<体験内容>

茶畑の維持という点で雑草の除去、枝の剪定などがあるが、平面と斜面では負荷にかなり差がある。また枝の剪定に使用しているはさみもてこの原理で簡単に切ることはできるが、柄の部分がかなり重く、長時間使用することは難しい。(写真8)

ヘルスケアの観点で、運動機能維持とストレス低減の2つの効果を考えているが、スポーツジムと違って、ライトな運動となるよう疲労が蓄積しないよう同じ態勢での長時間の作業や道具の軽量化など作業負荷に合わせてプログラム化する必要がある。

斜面の茶畑に関しては、最近トレッキング自体がはやっているため、コース設定とその他の体験も組み合わせることでサービス化も考えられることが確認できた。(写真9)

2月19日 ホテル業界誌役員へコンテンツ提案と集客協力の打ち合わせを行い、静岡県内のホテルとの連携について依頼した。

写真1～3 美しい景観と耕作放棄地



写真4～6 トイレ



写真7



写真8、9



<考察>

調査の結果、静岡駅や静岡ICなどアクセスのよい立地としては申し分ないことが分かった。集客と継続的に来てもらうため、ヘルスケアサービスとしてのプログラム化だけでなく、きっかけづくりのためのエンタメ系の茶畑の農作業以外の体験を組み合わせ、静岡市内と静岡市外（県外も含む）アプローチは分けて考える必要がある。

特にリピーターとして利用してもらうための学校向けの教育コンテンツ、グランピングなどのコミュニティスペースとしての仕掛けなども合わせてコンテンツを増やしていく連携体制として、ホテル関係など今までインバウンド向けの取り組みで培ったネットワークをもとに座組を検討する。

ヘルスケアサービスについては、茶畑の農作業体験も時期別の作業種類の負荷レベルと時間によってプログラムをつくることと作業スケジュールの設計と体験者に対する指導スタッフ、体験前後のストレス低減等の検証なども必要になる。

また耕作放棄地は年々増えていくことから、体験場所は増やせるとも考えられるが、茶畑での農作業体験を通じて新規就農につながる可能性について検証していくことも重要のように思われるため、生産×体験という新しい農業モデルを目指したい。

3. 対象地域における今後の事業展開

今後の展開として、ターゲットに合わせた取り組みの座組について検討しながら、モニター体験で茶畑での農作業体験を通じて、ストレス低減効果があるのかについて検証する。また検証にあたっては、もう1つのテーマである未利用品の活用で加工、商品化するものとのシナジーが出せる内容に絞り込み、静岡県・静岡市の補助金等の施策も

検討しながら、進める。地区関係者等との調整状況にもよるが、以下のスケジュールで引き続き事業展開に向けて検討を続けていく。

3月：連携体制の座組の検討とモニター体験のターゲットの選定

4月：モニター体験者の募集とヘルスケアサービスの検討

5月：GW 期間中のモニターテストの実施

6月：体験効果の評価・分析

7月：助成金事業もしくは資金調達の検討

以上